

# CHANGE FOR THE BLUE in 京都

## CHANGE FOR THE BLUE in 京都実行委員会

### <BlueBoxが京都府内でごみを拾う人のつなぎ役になって活躍>

今年も京都府各地の行政や団体、学校と連携して清掃活動を行った。新たな連携先として同志社大学の政策学部のゼミ生から鴨川をキレイにしたいと依頼があり、協力が決定。地域の清掃団体と共にゴミ拾いを実施した。

どこでも持ち運びができるリュック型ゴミ箱「BlueBox」を開発。イベント会場や定期的に清掃活動をしている団体に貸し出したところ、目立つ色合いや珍しさから「これは何？」と注目を集めた。ペアを組めばお互いに拾ったごみを入れあうコミュニケーションが生まれ、利用者から「楽しかった」と感想をいただいた。10以上の清掃活動やイベントで活用した。

### 2022年度 実施状況について

#### ■ 祇園祭ごみゼロ大作戦

<課題・背景>  
沿道に放置されるごみの回収は大型ごみ袋では運搬が困難なことが課題だった。



・概要：7/15/16四条烏丸の鉦町エリアでエコステーションの設置、資源の分別、ゴミ拾い活動の実施、  
・目的：祇園祭の宵山でのごみ減量に取り組む  
・場所：京都市四条烏丸周辺  
・連携先：一般社団法人祇園祭ごみゼロ大作戦  
・効果：人が集まる祇園祭で活用した事で、一般の方などに周知することが出来た。  
また、ゴミを拾ってBlueBoxに捨てに来てくれる人もいた。

#### ■ BlueBox 舞鶴市オリジナルデザイン版作成

<課題・背景>  
観光地のシンボルとなっている赤レンガ倉庫やカニなどをデザインして地元の人達にゴミ拾い活動に参加を推進する。



・概要：ゴミ拾い活動の際に使用するBlueBoxの舞鶴オリジナルデザイン版を製作。  
・目的：舞鶴市でのゴミ拾い活動の啓発と、京都府全域にBlueBoxによるゴミ拾い活動を広げる  
・場所：舞鶴市赤レンガパーク  
・連携先：外部の団体など  
・効果：9/19舞鶴市の「ツルいフェスタ」にてお披露目した。

#### ■ 京都学生祭典

<課題・背景>  
大学生は海洋ゴミ問題についての認識を持っていない人が多いため、学生祭典で啓発活動をした。



・概要：KBS京都ラジオのイベントで祭典を象徴する踊り「京炎そでふれ」をCFBフラッグを持って演舞。その後地域の清掃活動を行う。本祭10月にはごみの分別ブースを出店した。  
・目的：若い世代に海洋ごみの現状を知ってもらう。  
・場所：9/10KBSホール 10/9平安神宮周辺  
・連携先：京都学生祭典実行委員会  
・効果：学生に海洋ゴミ問題について考え表現し、行動を起こしてもらうことになった。

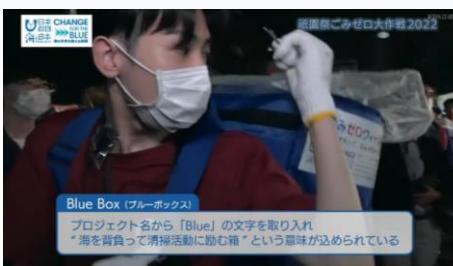
#### ■ 京都サンガ連携

<課題・背景>  
亀岡はプラごみゼロ宣言を掲げているが川から「海」への意識を高めてもらうことを狙いとした。



・概要：10/8早朝、亀岡駅周辺一斉清掃  
亀岡スタジアム内海ごみゼロブース出展  
海ごみゼロ宣言カードを書いた人に京都サンガFCコラボ軍手を進呈 保津川の砂を展示し摩擦したプラスチックの実態を知ってもらった。  
・目的：川から海にプラごみが流れ出ている現状を展示や宣言してもらうことで自分事化してもらう  
・場所：かめきた広場 サンガスタジアム  
・連携先：株式会社京都パープルサンガ  
亀岡市 NPO法人プロジェクト保津川  
・効果：400名以上の方がごみゼロ宣言した

### メディア露出



7/23 「キモイリ！」



9/30 「きらきん！」



10/21 「きらきん！」



10/22 「SUNNY TIME」

その他：TV6本

### 2022年度の課題とこれからの展望

2022年度はCFB活動の規模拡大と社会に与えるインパクトの大きさを意識して取り組んできた。去年に引き続き祇園祭での清掃活動や学生祭典と新たにコラボし、多くの人が集まるイベントで海洋ゴミ削減の啓発を進めた。しかし、まだまだ活動の認知度であったり、主旨などが浸透していない事が課題として見えてきた。来年度はユニクロとのコラボ商品開発や清掃活動をすることでお店を利用する人に興味を持ってもらい、活動の認知や問題の自分事化、清掃活動への参加を訴えかけていく。また、日々一緒に活動していただいている「鴨川を美しくする会」や「プロジェクト保津川」との地域の清掃活動は今後も参加者を増やせるように牽引していく。さまざまな活動で投入しているBlueBoxの展開としては、新たな行政とタッグを組み、舞鶴市のようなオリジナルデザインの物を製作し、地域での活動を推進する。